

浜松版日本語コミュニケーション能力テスト (HAJAC) マニュアル 2013 改訂版 2

浜松市の多文化共生を目指す取組の一環として、外国人住民の自立と生活ステージの向上を図るために、個人が持つ日本語コミュニケーション能力を浜松版日本語コミュニケーション能力テスト（HAJAC）で視覚化(見える化)し、その評価を活用することで、外国人住民、日本人支援者、日本社会のそれぞれに具体的な波及効果をもたらすことを目的としています。

公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）

目次

はじめに	2
浜松版日本語コミュニケーション能力レベル表	3
準備物、当日の流れ	4
実施	5
できることの例と質問の例	6
ロールプレイ/逆質問の手順	7
判定	8
評価基準表	9
インタビューシート記入方法	10
インタビューシート例	11
付録（ロールプレイカード）	12

はじめに

私たち公益財団法人浜松国際交流協会では、これまで様々な日本語教室を設置し、生活者としての外国人への日本語教育を行ってきました。多様な日本語使用環境にある彼らの日本語は体系的に積みあがっていないことも多く、この文型ができていればこの文型ができるだろうという日本語教師としての経験や予測が成り立たず模索してきました。このことは、逆に考えると、日常生活を営む上で、必ずしもその文型ができていなければならないというしほりがないことを表しているのではないかと、つまり、体系的に日本語の文型を理解できないと日本で生活できないというのではなく、彼らは日常生活を営みながら、自然に、自身にとって必要なだけの日本語を習得してきたのではないかと考えています。

そのような中、私たちは、日本語会話クラスでの活動に、日常生活の様々な場面において日本語でコミュニケーションができることを目的としたタスク先行型授業を取り入れ、それに沿った教師の研修を行ってきました。また、日本語学習意欲の向上や日本語学習継続の動機づけを行うために、評価を取り入れたら良いのではないかと考えるようになりました。しかし一方で、留学生や日本語学習が目的の学習者のように、体系的に日本語学習を行う機会を得られない（かった）彼らに対し、文型の理解度を確認するテストによる評価は不向きだとも思っていました。


確かに、彼らと会話の中では、文の切れ目がわかりにくかったり、文法の誤用があるため誤解を生じるときもありますが、「あー、すみません。」と心から申し訳なさそうに言ったり、相手に好印象を抱かせる話し方をしたりと、コミュニケーションストラテジーを感じることもしばしばあります。私たちは、生活者としての外国人が持つ日本語の特徴のうち、このような良い点も評価し彼らへのエンカレッジとなるテストが欲しいと思うようになりました。

この浜松版日本語コミュニケーション能力（HAJAC）テストは、このような背景から生まれたテストです。そのため、この質問に対してこの答えができるかといった一問一答的な面接テストではなく、自由な会話の中でコミュニケーション能力を判定する半構造化インタビューでのテストとなりました。半構造化インタビューでは、評価者の技量（言葉を引き出す、レベルを探りながら質問を考えて投げかける、判定する、評価する）が大きく問われます。コミュニケーションは「相互」のやりとりですから、インタビュー時にいかに相手から話を引き出すかが重要となり、インタビューがうまくできたと思えた時には、相手とのコミュニケーションが充実した証と言えるでしょう。

HAJAC テストを通じて様々な人と出会える喜びに感謝するとともに、コミュニケーションを通じた相互理解が多文化共生社会構築の一助となることを心より願います。

浜松版日本語コミュニケーション能力レベル表

これは、日常生活上の会話に必要な日本語コミュニケーション能力レベル表です。レベルは浜松版日本語コミュニケーション能力テストで判定されます。テストは15分間の半構造化インタビューで行います。日常生活での会話を想定し、質問に答えられるか否かではなくコミュニケーションが成立することを重視して判定します。



C7	周囲で起こっている問題について、自分の意見を述べたり、その理由について筋道を立てて説明したりすることができる
C6	日常生活上の話題について、自分の考えを伝えたり説明したりすることができる
C5	身近な話題について、会話を広げたり、会話を続けるために相手に働きかけたりすることができる
C4	身近な話題について、自分なりの表現を使って会話ができる
C3	覚えた言葉、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題について、短い文で答えることができる
C2	覚えた言葉、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題について、単語で答えることができる
C1	ごく簡単な表現を聞き取って、名前や出身国が言える
C0	ここからスタート！

インタビュー 実施マニュアル

◆ 評価者

このテストを実施する評価者は、日本語教師の資格（日本語教育の主専攻または副専攻の修了、日本語教育能力検定試験の合格、日本語教師養成講座 420 時間の修了のいずれか一つ以上）を有する者で、浜松版日本語コミュニケーション能力（HAJAC）テスト評価者養成研修を修了した者としします。

インタビューでは、学習者の口頭能力がどの水準まで達しているかを客観的に評価する必要があります。そのため、評価者は、主観的な判断ではなく、学習者の発話を注意深く聴き、的確な質問を紡ぎださなくてはなりません。

また、評価の結果はクラス分けに利用され、学習者の学習意欲に影響を与えることも考えられます。そのため評価者は、評価結果をもとに学習者に適切なフィードバックを行い、日本語学習継続の動機付けとするとともに、これまでの学習プログラムが適切だったかの振り返りを行い、改善していかなければなりません。

◆ 準備物

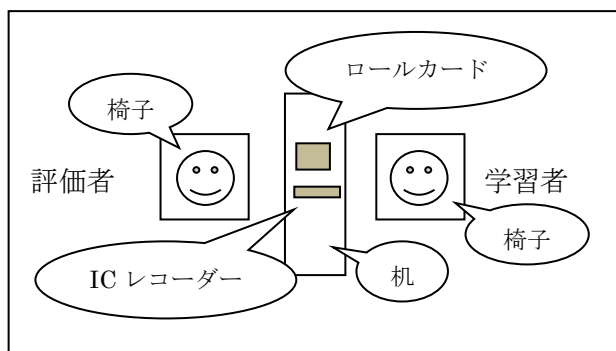
評価を行う際には下記のものを用意してください。

No.	名称	必要数	用途	備考
1	マニュアル	1	本紙です。評価の実施方法、評価基準表を見て判定をします。	インタビュー中に読むことはできません。
2	IC レコーダー	1	インタビューを録音し、後で聞き返しながら判定をします。文字起こしをする際にも利用します。	録音をする時は学習者に録音許可を取ってください。
3	ロールカード	1	C6・7 用のロールカードが 2 種類あります。	日本語・ポルトガル語・英語・中国語・スペイン語（5 言語）
4	インタビュー評価シート・筆記用具	1	評価を記録する際に使用します。学習者へのフィードバック、教師自身のスキルアップにも使用します。	インタビュー後にシートを書きます。インタビュー中に書くことはできません。
5	机	1	IC レコーダー・ロールカードを置きます。	
6	椅子	2	テスターと学習者が座ります。	対面に座ってください。

◆ インタビューテストと評価の流れ

1) 準備

テストは 15 分のインタビューで行います。会場は静かな場所を選んでください。会場は下記のとおり to セッティングしてください。インタビュー後に音声聞き返ししながら評価シートを記入する際はどのような場所でも構いません。



2) 実施

インタビューは下記の手順で実施してください。

1. 学習者と対面で座ります。評価者は学習者から録音許可を取ってください。インタビュー中に時間が確認できるよう、IC レコーダーは分・秒数が評価者から見える位置に置いてください。
2. インタビューを開始します。自然な早さで話してください。メモを取ること、マニュアルを持ってインタビューをすることはできません。学習者の発話を促し、話題をスパイラルに展開してください。



<POINT①>

このインタビューは、半構造化インタビュー¹です。ある程度決まった例（できることの例や質問の例(P.8)参照）を質問し、相手の話を聴くという姿勢でインタビューを始めましょう。各レベルの質問に対し、一つ一つ答えられたかを確認するものではありません。

<POINT②>

一つのテーマを中心にして、少しずつ質問の難易度を上げてください。学習者が言語的挫折（沈黙、「わからない」と言う、母国語が出るなど）を示した場合、別のテーマに変えてください。その際、全てのテーマを話す必要はありません。

¹ 半構造化インタビューとは、事前に大まかな質問事項を決めておき、回答者の答えによってさらに詳細にたずねて行く簡易な質的調査法。長時間のインタビューが行えない場合などに効果的。

<POINT③>

学習者の話を遮ったり、学習者の意図を汲み取り、先回りして手伝ったりしてはいけません。口頭能力が低い学習者には辛抱強く「待つ」姿勢でインタビューを行ってください。

3. インタビューが10～13分を過ぎたところでロールプレイ／逆質問をしてください。ロールプレイは指定のロールカードを使用してください。ロールカードは「ロールカード」(P.12)を参考にしてください。

ロールプレイ／逆質問は下記の表1を参考に実施してください。

4. 15分でロールプレイを含めインタビューを終わらせてください。15分を越えると評価に影響が出る可能性があるため、判定不能となります。

5. 録音を止め、学習者をリラックスさせ、退室させてください。判定はその場ですぐに行わないでください。必ずインタビューを聞き返して判定してください。

表1 (ロールプレイ／逆質問の手順)

<p>ロールプレイ／逆質問の前に学習者のレベルを仮判断します。 その際、学習者にレベルを告げてはいけません。</p>	
C3と判断した場合、文の生成能力があるか確認するために逆質問を行う。	C6,7と判断した場合、ロールプレイを行う。
<p>※C0～2、C4,5はロールプレイ／逆質問は行いません。</p>	
<p>インタビューで話している話題を終結し、ロールプレイ／逆質問を始めることを告げてください。</p>	
「今まで私たくさん〇〇さんに聞きました。今度、〇〇さんが私に聞いてください」	「わかりました。ありがとうございます。それでは今からロールプレイをします」
<p>ロールプレイ／逆質問の準備をします。</p>	
学習者からの質問を待つ。	ロールカードを学習者に渡す。学習者がロールカードに書かれた状況を理解できていなければ具体例を挙げるなどして補足説明を行う。
<p>ロールプレイ／逆質問の開始、終了を示してください。</p>	
学習者からの質問には簡潔に答え、2つ以上質問が出るように待ってください。	「それでは始めます。(ロールプレイの役として) 〇〇さん、今時間ありますか。・・・」 「ありがとうございました。これでロールプレイを終わります」

浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準表(平成25年度改訂版)

判定		特徴	判定の目安
C7	周囲で起こっている問題について、自分の意見を述べたり、その理由を筋道を立てて説明したりすることができる	<p>生活における場面や話題においてコミュニケーションを達成できる</p> <p>聞き手に負担を感じさせることはほとんど無い</p> <p>自分自身の話題や、周囲で起こっている問題について意見を述べることができる</p> <p>複雑な説明を求められても回避したり言い淀んだりすることはほとんどない</p> <p>くわしく描写や叙述ができる</p> <p>発話にはある程度のまとまりがある</p> <p>相手との関係性を意識し相手に合わせた表現の使い分けができる</p>	<p>種類が多い</p> <p>表現の差</p>
C6	日常生活上の話題について、自分の考えを伝えたり説明したりすることができる	<p>聞き手に誤解や負担を感じさせることはあまり無い</p> <p>自分の話題や自分に関わる問題について、考えを伝えたり説明したりすることができる</p> <p>複雑な説明を求められると回避したり言い淀んだりする</p> <p>描写や叙述ができる</p> <p>発話にはまとまりが見え始める</p> <p>話に一貫性がある</p> <p>文法の誤用は聞き手の理解にとって問題にならない</p> <p>時制の使い分けができる</p> <p>ウチとソトの使い分けができる</p> <p>相手との関係性を意識して話することができる</p>	<p>種類が少ない</p> <p>伝わりやすい</p> <p>意味の差</p>
C5	身近な話題について、会話を広げたり、会話を続けるために相手に働きかけたりすることができる	<p>質問に対して積極的に話すが、聞き手に誤解を与えたり、負担を感じさせることがある</p> <p>身近な話題について、自分から会話を始めたり、継続したりできる</p> <p>コミュニケーションを保とうとして相手に働きかけることができる</p> <p>話題によってはまれに言い換えができる</p> <p>思いつくままに話しているために何を言いたいかが相手に伝わりにくい</p> <p>身のまわりで起こっていることや家族・生活について詳しく話そうとするが一貫性がない</p> <p>時制の使い分けを時折間違えている</p>	<p>伝わりにくい</p> <p>多</p> <p>発話量の差</p>
C4	身近な話題について、自分なりの表現を使って会話が可以的	<p>覚えた語彙や表現、決まり文句を使って馴染みのある話題に限り、簡単な会話を維持できる</p> <p>質問に対しては自分から積極的に情報を伝えようとするが、聞き手に非常に負担がかかる</p> <p>相づち、フィラーができる</p> <p>聞き返すことができる</p> <p>身のまわりで起こっていることや家族・生活について簡単に言える</p>	<p>少</p> <p>自分て話題を展開し始める ↑↑C4</p>
C3	覚えた言葉、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題について、短い文で答えることができる	<p>覚えた語彙、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題に関し、単文で答えることができる</p> <p>質問に対しては主として受身的だが、時折自分の持っている情報を付け加えて答えることもある</p> <p>C2に比べ語彙量が多く、話題に広がりを持ち始める(限られた範囲の語彙数が増えつつある)</p> <p>自発性が現れ話すことを楽しむ様子が見られる</p>	<p>C3↓一問一答の会話を中心</p>
C2	覚えた言葉、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題について、単語で答えることができる	<p>覚えた語彙、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題に関し、単語で答えることができる</p> <p>質問に対しては主として受身的だが、時折自分の持っている情報を付け加えて答えることもある</p>	
C1	ごく簡単な表現を聞き取って、名前や出身国が言える	<p>単発的に単語を発する程度である</p> <p>質問に対し反応するのが精一杯で受身的である</p>	
C0	ここからスタート！		

判定	できることの例	質問の例			
		くに	家族	料理	趣味
C7	<p>《自分の意見を述べたり、その理由について筋道を立てて説明したりすることができる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新のニュースや興味のあることについて、説明したり意見を述べたりすることができる ・例を挙げながら違いをわかりやすく説明することができる ・自分の経験(仕事、旅行、引越、趣味等)を詳しく説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近あなたの国で起きた出来事について教えてください ・あなたのお国で話題になっていることは何ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国と日本で家族の関係に違いがあると思いますか ・最近、家族にとって何か特別な出来事があったら話してください 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇という料理は家庭ごとに作り方が違いますね。違いを説明してください 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の部活動についてどう思いますか ・スポーツと健康についてどう思いますか
C6	<p>《日常生活上の話題について、自分の考えを伝えたり説明したりすることができる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃や家族との思い出を語ることができる ・配偶者と知り合ったいきさつを心情の変化を交えて話すことができる。 ・特別な日に食べる料理とそれにまつわる行事について説明できる。 ・映画・ドラマのストーリーを説明することができる ・自分の経験(仕事、旅行、引越、趣味等)を説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつどこで誰とどのように〇〇したんですか、詳しく話してください ・あなたのお国で話題になっていることは何ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご主人/奥さんとどこでどうやって知り合いましたか(気持ちの変化を含む) ・子どもの頃、1番楽しかったことは何ですか/1番悲しかったことは何ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な日(新年・結婚式・お祭り)にどんな料理を食べますか ・どうしてそれを食べますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーのルールを教えてください(説明してください) ・映画のストーリーを教えてください(説明してください)
C5	<p>《身近な話題について、会話を広げたり、会話を続けるために相手に働きかけたりすることができる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃や家族との思い出を話せる ・料理の作り方、スポーツのルールが言える ・自分の経験(仕事、旅行、引越、趣味等)を簡単に言える 	<ul style="list-style-type: none"> ・(おすすめの場所)にどうやって行きますか(時間/行き方等) ・どの季節がいいですか。それはどうしてですか ・〇〇のどちらからいらっしゃいましたか。何が有名ですか。それはどうしてですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃の家族の思い出を教えてください ・ご主人/奥さんはどんな人ですか ・あなたが優しいと思う時はどんなときですか。エピソードがあれば教えてください 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の料理を作ったことがありますか(いつ、どこで、だれと…) ・どのように作りましたか ・難しかったところがありますか ・おいしく作るポイントは何ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行に必要なものは何ですか ・サッカーで一番楽しかった経験は何ですか ・サッカーのルールを教えてください(説明してください) ・映画のストーリーを教えてください(説明してください)
C4	<p>《身近な話題について、自分なりの表現を使って会話が出来る》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の出身地(位置/町の特徴/おすすめの場所等)について、簡単に言える ・料理や出身地などの特徴が言える ・手順や行動について順を追って言える ・趣味、仕事について簡単に答えることができる(5W1H) ・自分の家族を簡単に描写できる ・家族呼称の使い分けができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(出身地)はどんなところですか ・おすすめの場所はどこですか ・それはなぜですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご主人/奥さんはどんな人ですか ・あなたが優しいと思う時はどんなときですか。エピソードがあれば教えてください 	<ul style="list-style-type: none"> ・(出身国)の有名な(おすすめの)料理を教えてください ・どんな料理ですか ・どうやって作りますか(作り方が簡単に言える) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもどんな音楽を聞きますか ・いつもどんな映画を見ますか ・それはなぜですか
C3	<p>《覚えた言葉、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題について、短い文で答えることができる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の出身地が言える ・いつ日本に来たか言える ・職業が言える ・家族の人数と構成を言える。 ・好きなもの・ことが言える(趣味・欲しいもの・したいこと) ・「はい」が「いいえ」で答えられる ・AかBかの質問に対して選択して答えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(出身地)は(国)のどこですか ・〇〇のどちらから来ましたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族は何人ですか (答え: 〇人です。) ・どこに住んでいますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな食べ物は何ですか ・何の料理ですか ・どんな味ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画が好きですか ・よく見ますか ・アメリカ(日本、インド)の映画を見ますか ・いつ/誰と/どこで見ますか ・趣味は何ですか
C2	<p>《覚えた言葉、表現や決まり文句を使ってごく身近な話題について、単語で答えることができる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の出身地が言える ・いつ日本に来たか言える ・職業が言える ・家族の人数と構成を言える。 ・好きなもの・ことが言える(趣味・欲しいもの・したいこと) ・「はい」が「いいえ」で答えられる ・AかBかの質問に対して選択して答えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(出身地)は(国)のどこですか ・〇〇のどちらから来ましたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族は何人ですか (答え: 〇人、〇…) ・どこに住んでいますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ご飯、何を食べますか ・鮎(日本の食べ物)を食べますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画が好きですか ・よく見ますか ・アメリカ(日本、インド)の映画を見ますか ・いつ/誰と/どこで見ますか ・趣味は何ですか
C1	<p>《ごく簡単な表現を聞き取って、名前や出身国が言える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が言える ・自分の名前が言える ・出身国が言える 	<ul style="list-style-type: none"> ・お名前は ・お国は 			
G0	反応できない				

3) 判定

インタビューが終わったら、評価者は音声を聞き返しながら、評価基準表（P.7）をもとに学習者のレベルを判定します。

【評価者】判定はインタビューを行なった評価者と資格を持った評価者の 2 名で行ないます。判定が大きく分かれた場合は 3 名の評価者で評価を行います。

【判定方法】

- ① 音声を聞き返し、話題ごとの発話内容を特徴と照らし合わせて判定します。質問に答えられたかどうかで判断するものではありません。特徴が一つあてはまったとしても、そのレベルの中で他の項目が多数できていなければ、そのレベルではありません。
- ② 話題ごとのレベルをインタビュー評価シートに記入します。
- ③ 全話題のレベルを総合的に見て、安定してできているレベルを探し最終判定を出します。

<POINT④>

インタビューの文字起こしはできる限り行くとよいでしょう。文字起こしをすることで、インタビュー時には気がつかなかった判定の根拠を見つけることがあります。また、テスト自身のインタビューの癖にも気づくことができ、スキルアップにも繋がります。

評価基準表の見方

項目	内容
判定	C0 から C7 まで 8 段階あります。C は Communication の頭文字です。テストを受けた本人および日本語教室以外でも参照することを前提としたため、わかりやすい表現となっています。
特徴	レベル毎の発話の特徴を表しています。
判定の目安	近接するレベルにおいて、判定を迷ったときに目安となります。

4) 評価

インタビュー評価シートへ記入し、学習者へフィードバックします。インタビュー評価シートへは学習者にもわかる日本語で記載しましょう。

項目	内容
話題	インタビューで挙げた話題を書きます。 例：サンパウロについて、旅行先でのトラブル
レベル	話題に対し、特徴が安定しているレベルをチェックします。
備考	気づいたことを記載します。
ロールプレイ／ 逆質問	ロールプレイ／逆質問時に気づいたことを記載します。
できたこと	学習者ができたことを箇条書きで記載します。 例：〇〇という語の言い換えがわかりやすかった。
勉強した方がよいこと	学習者がこれから学んだ方がよいことを箇条書きで記載します。 例：自分の気持ちを表す語をもっと覚えた方がよい。
特記事項	インタビューの中で発話としては出てこない姿勢、態度などを記載します。 例：非常に積極的に話をしようとしていた。相手の話を最後まで聞けていた。

例

インタビュー評価シート

名前(国籍): ○○○○(フィリピン)

判定

C4

クラス:

話題	レベル							備考
フィリピン	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	
家族との思い出	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	さいしょから さいごまで 話ができいてました
日本での家族	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	
読書	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	本の ストーリーを 話す時の ボキャブラリーを もっと勉強しましょう
子育て	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	たくさん話題が ありました
				C4	C5	C6	C7	
						C6	C7	
						C6	C7	

話題によってはC5に達することもあります、安定してできているのはC4です。

ロールプレイ/逆質問

できたこと

- ・じしんを もって 話をしたり、聞いたり できています。
- ・母の日のできごとを 最初から 最後まで 話すことができています。

勉強した方がよいこと

- ・自分の いけんを 話す れんしゅうを しましょう。
- ・せつぞくしを たくさん おぼえましょう。
～で、～で、という話し方が 多いです。

「できたこと」「勉強した方がよいこと」は、今後の学習につながる評価なので、できるだけ多くのアドバイスを 書き入れましょう。

特記事項

判定日: xxxx.xx.xx

テスター: △△△△

付録（ロールプレイカード）

①

あなたは会社^{かいしゃ}の上司^{じょうし}に食事^{しょくじ}に誘^{さそ}われました。理由^{りゆう}を
言^いって断^{ことわ}ってください。

ポルトガル語・英語・中国語・スペイン語あり

あなたは友達^{ともだち}に食事^{しょくじ}に誘^{さそ}われました。理由^{りゆう}を言^いって
断^{ことわ}ってください。

ポルトガル語・英語・中国語・スペイン語あり

②

あなたは今^{いま}から友達^{ともだち}と出^でかける約束^{やくそく}をしています。
しかし、借^かりているアパートで水漏^{みずも}れがありました。
それを大家^{おおや}と友達^{ともだち}に言^いってください。

ポルトガル語・英語・中国語・スペイン語あり